

★マリガヤハウス便り★ ★河野 尚子★

日本の皆様、残暑お見舞い申し上げます。朝晩涼しくなり始めたネットニュースで見かけますが、気温の変化にはお気をつけ下さい。こちらフィリピンも朝夕涼しくなりました。先々週は台風が立て続けに来たため、毎日のように雨が降っていました。

さて！9月です！クリスマスシーズンがやってまいりました！フィリピンでは、9月になるとクリスマスソングがラジオから流れ始め、クリスマスツリーの販売が始まります。年配のフィリピン人曰く、11月末にあるフィリピンのお盆が終了するまで、クリスマスは祝わないそうです。が、やはりクリスマスは稼ぎ時！！のビジネス界はもうすでに盛り上がっています。子ども達も今年のクリスマスギフトは何をおねだりしようかなあ、とクリスマスが来るのを待ち望んでいます。



【マリガヤハウスインターン紹介】

マリガヤハウスでは、フィリピンデラサール大学アイセックと連携し、各国から学生インターンを受け入れています。マリガヤハウスは現在スタッフ2人で活動しており、万年人手不足な状態です。そんな私達の貴重な助っ人が学生インターンなのです。インターン達は、書類翻訳、国籍申請、家庭訪問、JFCのためのワークショップなどの支援をしてくれています。本当に助かっています。では、現在活動してくれている学生インターンに自己紹介をしてもらいます！

・八重代涼介 南山大学総合政策学部2年

マリガヤハウスでインターンシップを始めて、3か月以上が経ちました。自分自身で翻訳した書類が、クライアントさんの国籍取得届と提出され、日本大使館に受理された時、大使館を後にする際にJFCの子が“Thank you”と言ってくれる時、すごく、やりがい・嬉しさを感じます。まだまだ学ぶ事がたくさんあるので、何が自分にできるかを考えながら、これからも頑張っていきます。

・久保比佐司 国際基督教大学 2年

インターンが始まってもう6週間近くになりました。JFCと接する機会もありましたがとても優秀で大きな可能性を感じています。僕自身が彼らと接することで多くのことを学び、良い刺激を受けました。彼らの将来へのサポートが少しでもできれば幸いです。

・松本真菜実 明治大学国際日本学部 3年

8月9日から約一か月半、マリガヤハウスでインターンをさせていただいている松本真菜実です。インターン3週間目ですが、書類の翻訳や、書類を大使館に届けるのも一人の人生が関わっているのだととても実感しました。短い期間ですが、JFCの子たちが少しでも良い人生を送れることを願い、自分にできる仕事を精一杯していきたいと思います。





・八野井めぐみ 早稲田大学3年

日本とフィリピンをつなぐ懸け橋に少しでも貢献できればと思い、ここマリガヤハウスでインターンさせてもらっています。まだ開始して2週間ほどですが、家庭訪問や大使館への書類提出のサポートを通して、JFCの抱える問題をこの目で実感しています。フィリピンにいるからできること、日本人だから出来ることは何かと考え、マリガヤのJFCと、被災地のJFCとの交流プロジェクトを計画中です。

・藤原稔久 上智大学国際教養学部3年

フィリピンのことを学びたいと思い、マリガヤハウ

スに来ました。フィリピンの格差のことや、JFCの現状を知り、この目で確かめることができました。後1週間程度ですが、貴重な経験ができました。自分がマリガヤハウスやJFCの役に立てたのなら幸いです。

【JUSTGIVING ジャパン:ジョセフ・タカミ・アドマナくんへの日本語家庭教師始めました。】

前号のマリガヤニュースレターでご紹介しました、ジョセフ・タカミくん。彼は死後認知裁判費用を集めるため、JUSTGIVINGジャパンでチャレンジをしています。彼のチャレンジは、2012年12月に行われる日本語検定で4級に合格することです。そんな彼のチャレンジに共感したマリガヤハウスの学生インターン達、ジョセフくんへの日本語家庭教師を始めました。

ジョセフくんへの日本語の授業が開始しました。日本から持参した日本語の教科書やマリガヤハウスにある日本語の本などを利用していざスタート！しかしいままでに日本語を教えたことがなかったためにとっても苦労しました。いままでの英語学習の逆のことをすればいい、という甘い考えていたのですがいざ始めてみるとこれが難しい。です、ます、ございますといった敬語があったり、名詞の前に「お」がつく場合があったりと英語とは全然違うので単純にはいきませんでした。ひらがな、カタカナ、漢字、濁点などなどの字も日本語を学習したことがない人にとっては複雑怪奇のようです。ある外国人に言わせると日本語はwritingではなくdrawingだそうです。たしかに僕自身も日本語を教えてみて初めて日本語の難しさに気付くことができました。

しかしジョセフくんはととても意欲的に学習に取り組んでいます。一回目に出した単語の宿題も二回目の授業では完璧に覚えてきていましたし、さらにプラスアルファで単語を覚えてきてくれました。授業開始前は日本語検定4級が難しいのではないかと考えましたが、彼の学習態度を見ているとこのままいれば十分に合格可能であると感じます。また、彼が真剣に日本語の勉強をしている姿を見ていると僕自身も触発され、いろんなことにチャレンジしてみようという気になれます。彼は日本に行きたいと本気で考えています。僕たちも彼のその本気に応えて真剣に日本語を教えます。(文責:学生インターン久保比佐司)



マリガヤハウスの主な活動

2011年6月

- 新規クライアント受取前にオリエンテーションを開催。
- 新規クライアント登録会議を開催。
- JFCネットワーク奨学生・ソロプチミスト奨学生・在日フィリピン大使館奨学生合同会議を開催。
- 認知後の国籍申請のため在比日本大使館を訪問。
- ローカスから依頼されたDNA鑑定実施。
- JFCネットワーク東京事務所理事会にスカイプで参加。
- フィリピン・ジャパンパートナーシップネットワーク(PJP)会議参加。
- フィリピンJICA事務所主催日系NGO会合に参加。
- IOM主催JFCウェブサイト立ち上げのための研修に参加。



2011年7月

- 新規クライアント受取前にオリエンテーションを開催。
- 新規クライアント登録会議を開催。
- 7月1日から14日まで河野尚子が日本一時帰国し、東京事務所にて勤務。
- 認知後の国籍申請のため在比日本大使館を訪問。
- ローカスから依頼されたDNA鑑定実施。
- フィリピン・ジャパンパートナーシップネットワーク(PJP)会議参加。

2011年8月

- 新規クライアント受取前にオリエンテーションを開催。
- 新規クライアント登録会議を開催。
- クライアントへの家庭訪問を実施。
- JFCネットワーク奨学生・ソロプチミスト奨学生・在日フィリピン大使館奨学生合同会議を開催。マリキナ市営プールにてスイミング教室実施。
- 認知後の国籍申請のため在比日本大使館を訪問。
- ローカスから依頼されたDNA鑑定実施。
- フィリピン・ジャパンパートナーシップネットワーク(PJP)会議参加。
- 学生団体アイセック東京大学のマリガヤハウス訪問受け入れ。
- 2011年JFCネットワークスタディツアー受け入れ準備開始。



パグ アサ
PAG-ASA

JFC奨学金基金報告
パグアサー夢・希望

2011年6月新学期が始まり、1学期の試験が終了しました。毎月行われている奨学生会議では、試験はどうだったか、ちゃんと学校にはまっているか、宿題はちゃんと提出しているか、など母親達と一緒に子ども達の学校生活の確認を行っています。時には、思春期に入った子どもを持つ母親へのカウンセリングをしたりします。奨学生達の勉強への頑張りは続いており、みんな平均点80点を保っています。平均点80点を保つことは、勉強をする環境が整わない公立校に通う子ども達には、とても



大変なことです。フィリピンの公立小学校・高校は、1クラス60人以上で構成されています。椅子や机が足りないため、子ども達は各自家からそれらを持参しています。また、教科書や学習帳も人数分ないため、家に持ち帰って予習復習もできない状況です。そんな環境の中、彼らが良い成績を取れるのは本当に素晴らしいことで、それをサポートする母親達の努力でもあると思います。

そんな彼らの頑張り称え、そして気持ちのリフレッシュも兼ねて、2011年8月の奨学生会議ではスイミング教室を行いました！

「8月の奨学金会議は、スイミング教室にします！」と発表すると、子ども達から拍手と歓喜の声！そして母親達は、「あら、私達今更ビキニは着られないわあ。」と喜びと同時に悩みの声も。。(この市営プールではビキニは禁止となっています。。)



そんなこんなで、マリガヤハウスからジプニーで15分ほど行ったところにある、マリキナ市営スイミングプールに行ってきました。市営のため1人40ペソ(約80円)で1日中泳げ、メロマニラ首都圏を代表するクリーンな町マリキナなので施設もとても整備されています。



まず初めに、水泳中に足が攣らないよう、みんなしっかりと準備運動をし、いざ水の中へ！フィリピンは島国なのですが、公立校にはスイミングプールが備え付けられていないため、ほとんどの子ども達が水泳方法を学ばないまま大きくなります。マリガヤハウスの子も泳げない子ばかりで、顔を水につけるのが精一杯。

今回の教室では、クロールの基礎を学ぶのが目標。まずは、水に慣れる

ため、プールの端を持って顔をつけて、口から息を吐く練習をしました。中には水中で息を吐ききった後、水中で息をしてしまい苦しそうにする子もいて、教えている方も冷や冷やでした。段々とコツがつかめて来た子ども達は、次にミタ足の練習をしました。始めて水泳を学ぶ子ども達は、水と親しむことが楽しいようで、バタ足から出る水しぶきを楽しみながら思い切り練習しました。1時間ほどの練習後、みんなで体を水に浮かせ、息継ぎ無しでバタ足のみで5メートルほどを泳いでみました。みんな、意外と上手く泳げたので、驚きました。泳げた子ども達自身も嬉しかったようで、もっと泳ぎたい！クロールの仕方をもっと先まで教えて！とのリクエストが出始めました。いつもの奨学生会議では見かけない、子ども達の生き生きとした表情が見れて、私達スタッフも嬉しかったです。教室終了後は、みんなで「水中どろけい(泥棒と警察に分かれてのおっかけっこのようなもの。)をしました。

この水泳教室を通して、とても大切な発見がありました。今年から奨学生として参加しているユキは、本当に恥ずかしがり屋で、いつも母親の後ろに隠れています。名前を呼んでも恥ずかしがって返事をしなかったり、質問をしても答えられなかったりと、今後もスタッフや母親からの心の支援が必要な子どもです。そんな彼女が、今回の水泳教室では母親から離れて、他の子ども達と一緒に泳ぐことができました。彼女自身から、もっと泳ぎたいから体を支えて、と言われた時はとても驚きました。彼女の母親も驚いたようで、「ユキが泳ぐの始めてみたよ！凄く嬉しそう！」と喜んでいました。水泳教室後、ユキは他の子ども達と少しおしゃべりができるようになっていました。これはとても重要な変化だと思います。

3時間と少し長めの教室となりましたが、母子もスタッフもとても楽しい時間を過ごすことができました。子ども達からクロールをもっと学びたい！との希望が出ていますので、今後もこの水泳教室を開く予定です。

(文責:河野尚子)

